

# 令和3年度 あいちラーニング推進事業

～主体的に学び続ける生徒の育成を目指して

愛知県立熱田高等学校

2022. 1. 18

# 本日の日程

14:00~14:20

受付(正面玄関)

14:20~15:10

公開授業(別紙参照)

15:20~16:30

研究協議会(会議室)

学校長挨拶・来賓紹介

研究成果発表

教育委員会からのご指導

質疑応答

諸連絡・解散



# 本年度の研究目標（あいちラーニング推進事業最終年度）

- (1) 昨年度までの研究指定校事業を受けて、本年度も継続して各教科で発問についての研究を深め、深い学びを追究する。
- (2) 授業内のグループ学習や家庭学習等あらゆる場面でICTを積極的に活用し、主体的・対話的な学びを実践する。
- (3) 今後の他校での授業改善や新教育課程の評価の研究に役立つように、本年度の成果を広く公開する。

# 本年度の目標達成に向けた取組の概要

- (1) 発問の工夫に加えて、生徒の学習活動の各場面に即した効果的な問いかけを意図的に発することにより、学習活動の観点を明確に伝え、生徒の主体的・対話的な学習を促すとともに、グループ活動や学習の振り返り等を適切な場面で設けることにより、深い学びを実現できるようにする。
- (2) 全職員で、ICT機器やロイノート・スクール及び一人1台タブレットを積極的に活用し、生徒の学習活動が主体的・対話的な学びに繋がるよう、授業改善に取り組む。
- (3) 3観点別の評価について教科会を中心に研究した成果をカリキュラム委員会で共有し、学校としての評価の在り方について方向性を見いだす。
- (4) 学校のHPや研究協議会等を活用して、広く成果の公開をするとともに、学校間での情報共有の場を設け、他校へも情報提供や他校の相談に応じられるようにする。

# 研究内容

- 6月 3日(木) カリキュラム委員会にて研究計画の概要説明  
県へ計画の報告
- 7月 9日(金) 大阪府立鳳高等学校訪問
- 7月16日(金) 第1回あいちラーニング推進事業名古屋地区連絡協議会開催  
(主管校(本校)主催)
- (随時) 授業研究
- 11月 5日(金) 豊田南高等学校公開授業並びに研究協議会参加
- 11月 8日(月) 授業公開週間を活用して授業研究を実施  
~12日(金)
- 11月 9日(火) 高蔵寺高等学校公開授業並びに研究協議会参加
- 11月12日(金) あいちラーニング推進事業研究成果合同発表会(三の丸庁舎 オンライン配信)
- 11月19日(木) 松陰高等学校公開授業並びに研究協議会参加
- 12月16日(木) カリキュラム委員会にて中間報告
- 1月18日(火) 公開授業及び研究協議会開催
- 2月 3日(木) カリキュラム委員会にて最終報告(予定)
- 2月15日(火) 第2回あいちラーニング推進事業名古屋地区連絡協議会参加(予定)  
(主管校(松陰高等学校)主催)
- 3月18日(金) 県へまとめの報告。HPにて取組内容の公開開始(予定)

# 愛知県立熱田高等学校スクールポリシー

## 1 目指す生徒の姿（生徒の育成）

- 基礎・基本の力を活用して課題の解決ができる人
- 深い思考力と的確な判断力と豊かな表現力を身に付けた人
- みずから目標を設定して粘り強く取り組むことができる人

## 2 本校における学び（教育課程の編成と実施）

- 進路に適した教育課程を選択してひとり一人の夢を実現する
- ICTを有効に活用しながら主体的に学び続ける姿勢を育成する
- 生徒の思考力・判断力・表現力を育成する授業を実践する

## 3 入学を期待する生徒の姿

- 勉学への関心と意欲が強く継続的に努力できる生徒
- 部活動や生徒会活動に意欲的に取り組む生徒
- 多様な価値観を尊重する寛容な心を持った生徒

(参考)

### <本校の教育目標>

- 正浄・真剣・敬和を精神的基盤として、品格ある人間を啓培する。
- 自主性・創造性・積極性に満ちた気力ある人間を培育する。
- わが国及び国際社会の発展に寄与しうる健康なる人間を育成する。

<キャッチフレーズ> (学習＋部活＋行事) × 素直 = ∞

愛知県立熱田高等学校「育成を目指す資質・能力と、各教科における評価項目」

育成すべき 資質・能力		レベル1	レベル2	レベル3	国語	地公	数学	理科	保体	芸術	英語	家庭	情報	総合
知識 技能	社会的課題に対する知識・技能、 理解力	情報を収集し、必要なものを抽出することができる。	抽出した情報を理解することができる。	抽出した情報を課題解決に活用できる。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
思考力 判断力 表現力	問題把握能力	課題の内容が理解できる。	課題の内容が理解でき、解決のプロセスを 考えることができる。	課題解決のためのプロセスを考え、それ に則って解決することができる。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	論理的な思考力、判断力	他者のアドバイスがあれば、課題解決策 を提案できる。	自分だけで課題解決策を提案できる。	自分だけで複数の課題解決策を提案でき る。	◎	◎	◎	◎	○	○	◎	◎	◎	◎
	筋道を立て他者に伝える表現力	自分の意見を他者に伝えることができ る。	自分の意見を他者に筋道を立てて伝え ることができる。	自分の意見が興味・関心を引くよう事例 等を挙げながら、工夫して伝えることが できる。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
主体的 に学習 に取り組む 態度	学びに向かう人間力、協働する力	学校の諸活動に積極的に参加できる。	学校の諸活動に他の生徒と協働して参 加できる。	学校の諸活動に自己の役割を見だし、 他の生徒と協働して最後までやり遂げよ うとする。	○	○	○	○	◎	◎	○	◎	◎	◎
	自らを変える力、振り返る力	自己の課題を把握することができる。	自己の課題を把握し、改善のための目 標を立てることができる。	自己の課題を改善し、反省と振り返りを 重ねて次の行動につなげることができる。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	他者理解、異文化理解	他者の意見や異文化を受け入れ、その 違いを理解できる。	他者の意見を記録・整理したり、異文化 について調べたり理解を深めようとして いる。	他者の意見や異文化を正確に理解する ために質問をし、比較検討することがで きる。	◎	◎	○	○	○	○	◎	◎	○	◎

◎:特に評価できる

○:評価可能

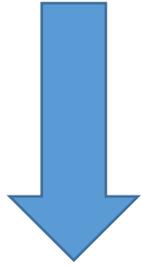
# 評価・評定付けまでの流れ

1 単元の目標を定め、評価規準を作成する。「指導と評価の計画」を作成する。授業をする。

学習マネジメントシートやシラバスを作成し、内容のまとまりごとに「どこで」「どのように」「どの観点」を評価するかを決める。

(シラバス例)

＜科目名＞			
目 標	＜学習指導要領の目標＞		
学習内容			
評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	＜「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料参照＞	＜「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料参照＞	＜「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料参照＞
評価方法			
担当者			



# Q1 定期考査と日常の評価との割合をどうするか。

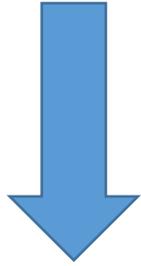
## 2 観点ごとに総括する。

内容のまとめりごとまたは学期ごとに評価を集約する。

(集約例)

学習活動	1	2	3	4	5	6	総括	単元の 評価
知・技	A(3点)			A(3点)	B(2点)		2.67点	A
思・判・表			B(2点)			A(3点)	2.5点	B
取組む態度		B(2点)		B(2点)		B(2点)	2.0点	B

B:  $1.5 \leq (\text{平均値}) \leq 2.5$



## Q2

集約方法は、どのようなものが適切か。  
また、生徒への知らせ方は。

### 3 評定へ換算する。

3観点の評価のまとめ

A=3点 B=2点 C=1点

3観点の平均値(=評点)を求める。

評定 5:(評点) $\geq$ 2.6  
4:2.3 $\leq$ (評点) $<$ 2.6  
3:2.0 $\leq$ (評点) $<$ 2.3  
2:1.6 $\leq$ (評点) $<$ 2.0  
1:(評点) $<$ 1.6

## Q3

3観点は原則1:1:1だが、加重する必要があるか。

(換算例)

評定	評点	3観点別評価
5	2.6以上	AAA AAB ABA BAA
4	2.3以上2.6未満	AAC ACA CAA ABB BAB BBA
3	2.0以上2.3未満	ABC ACB BAC CAB CBA BBB
2	1.6以上2.0未満	ACC CAC CCA BBC BCB CBB
1	1.6未満	BCC CBC CCB CCC

## Q4

評点から評価への範囲は本校にとって適切か。

## <成績処理のシミュレーション①>

評 価	小テ①	中 間	小テ②	レポート	期 末	小テ③	合 計 (3点満点)	評 価	評定
観 点 満点値	知:10	知:60 思:40	知:10	態:50	知:70 思:30	知:10	知:160 思:70 態:50		
生徒A	8	50 25	7	45	65 20	8	138(2.6) 45(1.9) 45(2.7)	ABA	5
生徒B	5	35 15	6	35	55 15	7	108(2.0) 30(1.3) 35(2.1)	BCB	2
生徒C	10	20 10	10	50	20 5	10	70(0.3) 15(0.6) 50(3.0)	CCA	2

## <成績処理のシミュレーション②>

評価	小テ①	中間	小テ②	レポート	期末	小テ③	合計 (3点満点)	評価	評定
観点満点値	知:10	知:30 思:20	知:10	態:50	知:35 思:15	知:10	知:95 思:35 態:50		
生徒A	8	25 13	7	45	32 10	8	80(2.5) 23(2.0) 45(2.7)	ABA	5
生徒B	5	17 8	6	35	28 7	7	63(2.0) 15(1.3) 35(2.1)	BCB	2
生徒C	10	10 5	10	50	10 3	10	50(1.6) 8(0.7) 50(3.0)	BCA	3

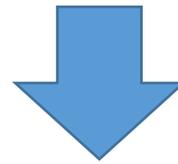
**当然考査の配分が小さくなれば、評価が変わる。**

## 生徒自身の評価として

生徒A：どの評価場面でも成果が出ており、評価も高い。

生徒B：中程度の成果だが、思考・判断・表現が評価できない場合。

生徒C：普段の学習には取り組んでいるが、定期考査に対して  
取り組めていない場合。



## 教員側の対応として

- 適切な評価の場面が設定できているか。
- 各評価項目の配点バランスは適切か。

# ICTの活用について

## <コミュニケーションの場面で>

- 各種調査・アンケート
- クラス・部活動・委員会等での連絡

## <授業の場面で>

- プリントなどの配付
- 課題の提出
- 実技の録画・提出(英語、体育など)
- 言語活動
- 成果物の共同編集
- 生徒間での成果物の共有



## <授業外学習や進路指導・総合的な探究の時間等の場面で>

- 情報検索
- 進路指導の情報調べ
- 講義動画の視聴(YouTubeなど)
- 総合的な探究の時間での成果物の共同編集
- 他校や海外とのオンライン授業

## ICTの活用（まとめ）

- 使い続けることでアイデアが生まれる。  
生徒から学ぶことも多い。  
制約が大きいと活用はできない。

## ICTの活用（課題）

- タブレット整備が主目的ではなく、その環境整備こそ重要。
  - 机のサイズ、椅子の素材、教室のサイズや環境、収容人数  
電子教科書や教材の在り方 など
  - 学校そのものの変容が必要になる。
- 学校の環境整備に伴い家庭環境における整備の重要性
  - 整備補助がどれだけできるか、ICT環境の社会的インフラの整備
- 故障時のスピーディな対応
  - 故障時の対応と今後の在り方、予備機の配備 など

一人一台は継続するのか。  
故障時の対応がタイムリーに行えるか  
5年は耐えられない。(3年が限度)  
個人で買うようになるのか。

## 評価について(まとめ)

- 振り返りシートやポートフォリオそのものを評価の対象とするのではなく、それをもとに生徒の考えたことや生徒の行動などを評価の対象としていく必要がある。
- 「知識・技能」：見落としがあるにせよ生徒が評価できる。
- 「思考・判断・表現」：教師が評価規準を合理的に決定したうえで生徒が評価できるように具体化すれば生徒が評価できる。
- 「主体的な学び」：途中でステップが必要。生徒同士が話し合い改善点や良い点を指摘し合い、それを踏まえてどうするかを書かせ、そのうえで改善されたかどうかを見取る。
- 評価することは少ない方がよい。教師だけでなく生徒にとっても取り組みやすい。例えば、「具体例を用いて書く」ということを評価対象とした場合、「誤字脱字」の指摘は行っても評価しないようにする。→ 評価のポイントの明確化

## 評価について(課題)

- 評価を「真剣」に考えることは、学びの深化に繋がる。  
→ 中途半端な評価の在り方をすべきでない。しかし、どこまでやりきれるかには不安が残る。
- 評価のポイント(どこで、どうやって、何を)をしっかりと話し合う必要がある。
- 「評定のため」の評価ではなく、「授業改善(教師側)と学習改善(生徒側)」の評価を重視するべきではないか。

なかなか切り替えられない。

# まとめ

- 評価について考えることは、授業をよりよくすることに繋がる、  
という認識に改められるようにする。
- 3年間やり続けることで、生徒は変化する。  
→ アクティブラーニングも意図したレベルに達するには3年かかる。  
評価も3年かけてよりよくできる。やり続けてこそ意味がある。
- ICTの活用もどんな些細なことも 「よりよく」なるなら使う ことを考える。使い続けることで新たな使い方が発見できる。
- 一人で考え込まず、仲間を増やす。  
→ 校内、校外問わず学びあえる“仲間”をつくろう。